

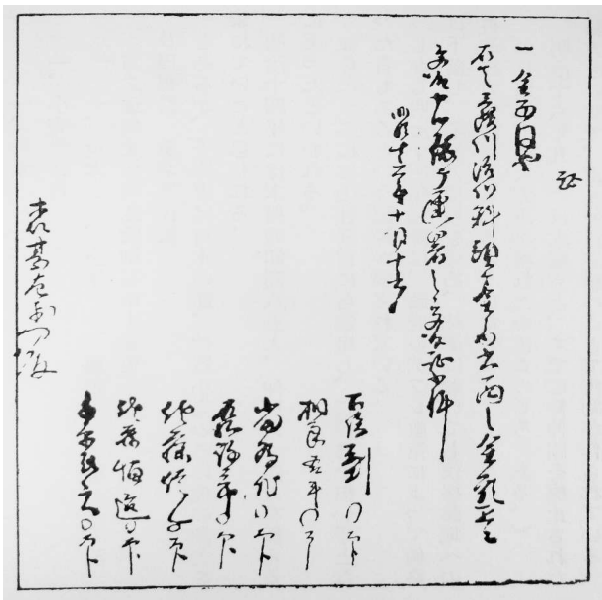
木協通信

第34号
発行年月日
平成27年1月6日
日田市南友田100-1
日田木材協同組合
総務企画委員会発行
TEL24-2167

☆日田木材協同組合百年を語る

この予算によって当時一年間に舟が約二〇〇艘、筏が四、〇〇〇枚程度川下りされていたことがわかる。

なお当時、治川料は隈町の豪商森甚左衛門に預けて置き、必要の都度、その中から受け取っていたようで、つぎのような証書が残っている。



また三隈の舟筏通路修繕に関することはすべて、佐藤信一、石松弥三郎、千原武六の三名が引受け世話することとなっている。

次号(続く)

☆平成27年 新年ご挨拶



組合員の皆様には、組合運営に多大なご協力を賜り誠にありがとうございました。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

昨年は、消費税の駆け込みとその反動に翻弄された一年でございました。組合事業も製品販売や加工部門は、苦戦を強いられております。しかし皆様のご協力で、資材販売は前年度並みを維持しておりますし、特筆すべきは原木市場部門が健闘いたしております。原木を出荷いただいている組合員の皆様、また高値で買上いただいております組合員の皆様にお礼を申し上げます。

懸案の恵良土場の埋め立ては、今後の公共工事の進捗状況に左右されますが、今年中には、ある程度目途がつくのではないかと思います。日田杉の館は、最近見学者が増加傾向にあり、本来の目的を果たして

ると感じております。家具業界との連携や木材輸出につきましましては、まだまだ実績の伴わない内容でございますが、一歩一歩着実に取り組んでいく所存でございます。また、多くの方々に林業試験部やひたモノツクリの勉強会にご参加いただきありがとうございます。組合員の方が単独ではできないことを組合として実行できればと考えております。役員一丸となりまして組合業務を推進して参りますので、さらなるご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶に替えさせていただきます。

☆日田家具工業会工場見学会

日田家具工業会との意見交換会でお出された、先ずはどんな材料が使われているか現場を見ましようという理事長からの提案を受け、平成26年12月3日の午後から、共販委員会のメンバーで、朝日木工・青柳インテリアを見学させていただきました。家具はこれまで殆どを輸入材で賄っていましたが、資源の枯渇や円安等から材料費も高騰しており、調達が困難になっているそうです。また、林業研究部でヒノキ等の国産材も部材を大きくすれば使用が可能との試験結果が出され、今後は少しずつではあるが国産材にシフトが可能と思われる。両社とも現在の国産材の使用割合は数パーセントのことです。スギのテーブルや学童用のイスなどを作製していました。また、炬燵を多く作っていました。材料はタブ等でありました。今後、相互理解を進め、日田材を使った家具が販売されることを願っています。



☆海外バイヤー招聘木材輸出商談会

i 九州

去る平成二十六年十二月十二日 JET ROおよび九州経済連合会主催による中国・韓国向け 製材品輸出商談会大分会場が当組合にて大分県共催により開催されま

した。中国より三社、韓国より三社のバイヤーが来県され、事前登録された大分、福岡、広島、高知県より製材工場、協組、森組などのメーカー十四社が午前中は事前マッチング商談会、午後には自由商談会とほぼ一日を掛けて商談しました。中国・韓国其々に製品への要望は具体化しており非常に現実的な商談が行われました。ここ数か月の急激な為替変動(円安)による購入意欲は高いのではないかと感じましたが、製品規格、販売量、遠くに中国側の要求は多量)、決済、荷渡し条件など、課題も具体化されました。今後も継続的な商談が続くかと考えられます。

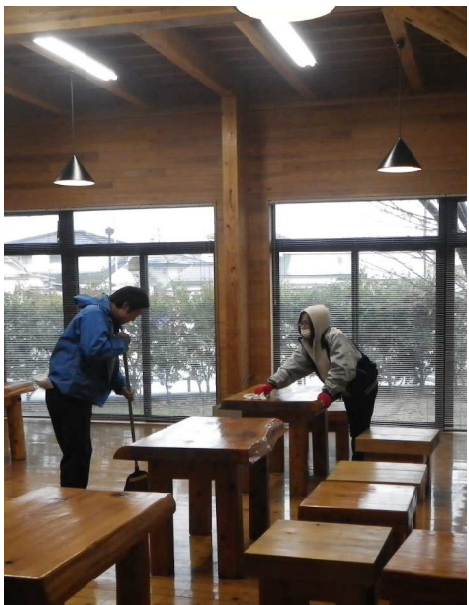


☆大熊幹章賞受賞

第13回木質材料・木質構造技術研究基金賞第2部門「大熊幹章賞」の授賞式が12月10日、東京大学にて開催され、国産材関連では瀬戸製材の瀬戸亨二郎社長が「画像解析による原木材積の測定とその応用」で受賞致しました。おめでとうございます。

☆日田杉資料館年末大掃除

12月20日に、資料館の大掃除を経費削減のため、木協職員にて行ないました。綺麗になりましたので、組合員皆様のご利用をお待ちしています。



☆お知らせ

○第3回 シゴト大講座

やまを元気にするヒトづくり講座

日時 1月9日 午後6時

場所 日田玖珠産業振興センター

○木材に関する勉強会

第4回 木材の乾燥その1

日時 1月13日 午後6時

場所 日田木材協同組合